様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 5 月 31 日現在

研究種目：若手（スタートアップ）
研究期間：2008～2009
課題番号：20830142
研究課題名（和文） 地域システムへの介入が一般高齢者の介護予防サービスに及ぼす効果に関する研究
研究課題名（英文） A study about the effect to give intervention in the local system for the nursing care prevention service of healthy senior citizen

研究代表者
川島 典子（KAWASHIMA NORIKO）
筑紫女学園大学短期大学部・現代教養学科・講師
研究者番号：30455092

研究成果の概要（和文）：ソーシャル・キャピタル（以下、ＳＣ）の構成要素である地域のボランティアを組織化することなどによって地域システムを構築することに、ソーシャルワーカー（以下、ＳＷ）が介入した地域の方が、介入しなかった地域よりも、一般高齢者の健康度は保たれ、介護予防サービスを履行するにあたって効果が得られることが実証的に立証される成果が得られた。

研究成果の概要（英文）：The health degree of the healthy senior citizen was kept from the area where the social worker intervened in building local systems did not intervene in by organizing the local volunteer who was the componentry of the social capital, and that an effect was provided when the nursing care prevention served it was inspected substantially.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	880,000	264,000	1,144,000
2009 年度	350,000	105,000	455,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,230,000	369,000	1,599,000

研究分野：
科研費の分科・細目：社会福祉学
キーワード：介護予防、一般高齢者、ソーシャル・キャピタル、ソーシャルワーク

１．研究開始当初の背景

改正介護保険法下においては、限られた数の専門職のみで、一般高齢者に対する介護予防サービスを行うのは困難であり、今後は、地域のボランティアなどのインフォーマルサービスとの連携が必須になる。そのような背景のなかで、地域のボランティアなどのようなソーシャル・キャピタルの構成要素を構築し、地域システムの構築ならびに組織化を行うのがソーシャルワーカーの重要な役割であるという仮説の下に本研究を行うこととした。

２．研究の目的

地域システムの構築にＳＷが介入してい

る地域と、介入していない地域では、介入している地域の方が、一般高齢者の健康度が保たれ、要介護状態になる高齢者が少なく、介護予防に一定の効果をあげているという仮説を実証的に検証することを、本研究の目的とした。

３．研究の方法

本研究は、一般高齢者に対する介護予防サービスを行う際、各地域に存在する様々な社会関係資本（ＳＣ）のシステム化、及び住民のネットワーキングにＳＷが介入した地域と、介入しなかった地域の一般高齢者を比較検討する研究方法により研究を進めた。

具体的には、ＳＷが地域システムの構築に関与している島根県松江市雑賀地区の一般高齢者と、関与していない松江市朝酌地区の一般高齢者を調査対象とし、ＡＤＬ・主観的健康感・認知症の傾向・転倒歴などを尋ねる自記式アンケート調査票による訪問面接調査（一部、郵送法）を行った。また、同様の調査を、福岡県筑紫野市の２つの「ふれあい・いきいきサロン」でも行った。

調査は、平成 20 年 1 月から 3 月にかけてと、平成 21 年 12 月から平成 22 年 4 月にかけての 2 度行った。調査対象者は、総計約 130 名である。

調査対象地とした松江市は、公民館活動と地区社会福祉協議会（以下、地区社協）の活動が盛んであるため、地区社協レベルで調査を実施し、福祉協力員（地域のボランティア）と民生委員の会合を利用して調査票を配布した。また、同じく調査対象地である筑紫野市は、「ふれあい・いきいきサロン」（以下、サロン）の活動が盛んであり、同サロンを拠点として介護予防事業を展開しているため、サロンに集う一般高齢者を対象として調査を実施した。

４．研究成果

調査票の回収率は、4 地区合計で 67.2%であり、調査票を分析した結果、ＡＤＬ・主観的健康感・認知症の傾向・転倒歴のいずれの項目も、ＳＷが介入している地域の一般高齢者の方が良好な結果が得られた。その結果は、殊に、認知症の傾向の設問において顕著にみられた。

しかしながら、本研究には以下の 2 点の「研究の限界」がある。①調査対象者が少なく、しかも無作為抽出によるものではない、②1 年のみの縦断研究であったことから、真の意味での経年変化を調査することができていない。

そこで、今後は、その 2 つの課題を克服すべく、ＳＷがＳＣの構築に介入している地域と、介入していない地域の一般高齢者を無作為に 5000 名抽出し、本研究で用いた調査票と同様の調査票により、自記式アンケート郵送調査法による調査を行い、更に、同様の調査を 3 年後にも行って、多変量解析による分析を行う予定であり、既に、新規に文部科学省科学研究費補助金基盤研究（Ｃ）に採択されている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2　件）

川島典子（2010）「介護予防サービスにおけるソーシャル・キャピタル」『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要第 5 号』筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部

川島典子（2010）「地域システムへの介入が介護予防サービスに及ぼす効果に関する研究」『筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報 No. 21』筑紫女学園大学・短期大学部

〔学会発表〕（計 1　件）

川島典子（2010）「介護予防サービスにおけるソーシャル・キャピタル―ボンディングな SC とブリッジングな SC をつなぐソーシャルワーク―」日本地域福祉学会第 24 回大会

〔図書〕（計 1　件）

成清美治、加納光子、川島典子他（2009）『現代社会福祉用語の基礎知識』学文社（本人担当部分「ソーシャル・キャピタル」など）

６．研究組織

(1)研究代表者

川島　典子（KAWASHIMA　NORIKO）
筑紫女学園大学短期大学部・現代教養学科・講師
研究者番号：30455092

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：